

第三回研墨書道會記念展

会期 平成二十四年九月十六日(日) 十七日(月)

会場 すばるホール3階展示室

主催 研墨書道会 代表 山添 鼎石

後援 大阪府・大阪府教育委員会・大阪府議会

富田林市・富田林市教育委員会・富田林市議会

莞歌社・株式会社呉竹・柳暉堂

ごあいさつ

光陰矢の如しと申しますが、早いもので、第二十回展を開催するはこびになりました。皆様方のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。特に今年は、会長である山添鼎石が九十才を迎え、鳩寿展と題して、新作と過去の作品をご覧いただけるようにしました。

また、学生部も丁度、九十人。ここから出発して子ども達がどのように飛躍してゆくか見守りたいと掲載し、記念に残す事にしました。

老いてもなお、筆を持ち続ける会長のその姿に、たとえ拙くても継続する事を大切に出品者一同取り組みましたので、ご容赦いただきご高覧、ご指導の程お願い申し上げます。

平成二十四年九月

第二十回研墨書道展 出品者一同

故
西村桂洲先生（莞歌社創立者）



金石壽

会長
山添鼎石作品



心を潜めて道妙を観る



調和体 1



悠悠天地間

使至得事之公既在少可感之何之不可之修更復
何如時氣漸於喜憐息也所清景望之即宜留
追然後遺為然好樂更速揀擇王鐸出鼎石於

王鐸書法精選拔粹

喜怒哀樂
喜怒哀樂之未發謂之中
鼎石迂人書

喜怒哀樂

青楓江上秋帆遠
白帝城邊古木疎

鼎石書



青楓江上秋帆遠く 白帝城邊古木疎なり
〈書歌誌掲載手本より〉

青瓷瓶挿紫薇花

鼎石書



青瓷の瓶に挿す紫薇の花
〈書歌誌掲載手本より〉

幽院獨驚秋
早向綠陰開
小門深
向
深
向
綠
陰
開
小
門
深

幽院獨り驚く秋氣の早きに 小門深く向う緑陰の開くに（書歌誌掲載手本より）

芳草池塘燕避風

鼎石書

芳草池塘燕避風

風のようにならなうと
あつちのようにならなうと
そんな女人生をまねた
は

調和体2

会長 山添鼎石 作品



調和体 3

青丹よし穿樂の都は
古き世のみ佛あまた座すれど
ひと際秀れぬでたきは
二月堂に立ちませる

月光善菩薩のみ姿ぞ



雨ニモマケズ
 風ニモマケズ
 夏ニモマケズ
 冬ニモマケズ
 丈夫ナカラダヲモチ
 慾ハナク決シテ頭ヲ
 イツモシヅカニ
 アラシムル
 一日ニ玄米四合ト
 味噌ト少シノ野菜ヲ
 タヘアラユルコトヲ
 ジブンヲカンジョウニ
 入レズニヨクシキキ
 シツカリシツテ
 ツクス
 野原ノ松ノ蔭ノ
 小サナ萱トキノ小屋
 ニイテ東ニ病氣ヲ
 コトモアレバ行ツテ
 看病シテヤリ
 平ツカシキ母アレバ
 行ツテソノ船東ヲ
 負イテ南ニ死ニシツテ
 人アレバ行ツテ
 トクガチナクモイ
 トイイ北ニ行ツテ
 ソノウケアレバ
 ツマラナイカラヤカ
 ナイヒテリイトキ
 ナミツチナヤシ
 ササナツツ
 オロオロアルキ
 ミンチニテクボロ
 ヲハシ
 赤シラレモセズ
 クニモサレズ
 ワクウイフモノニ
 ナリタイ

高澤賢治詩

雨ニモマケズ
 風ニモマケズ
 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
 丈夫ナカラダヲモチ
 欲ハナク
 決シテ瞑ラズ
 イツモシズカニワラツテ牛ル
 一日ニ玄米四合ト
 味噌ト少シノ野菜ヲタベ
 アラユルコトヲ
 ジブンヲカンジョウニ入レズニ
 ヨクシキキシツカリ
 ソシテワスレズ
 野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
 小サナ萱トキノ小屋ニイテ
 東ニ病氣ノコトモアレバ
 行ツテ看病シテヤリ
 西ニツカレタ母アレバ
 行ツテソノ船ノ東ヲ負ヒ
 南ニ死ニサウナアレバ
 行ツテコハガラナクテモイイトイヒ
 北ニケンクワヤソシヨウガアレバ
 ツマラナイカラヤメロトイヒ
 ヒデリノトキハナミダヲナガシ
 サムサノナツハオロオロアルキ
 ミンチニテクノボウトヨバレ
 ホメラレモセズ
 クニモサレズ
 ワクウイフモノニ
 ワタシハナリタイ

宮澤賢治詩

鼎石書

宮澤賢治二種

温故而知新

鼎
石
書

故を温ねて新しきを知る

心隨萬境轉

鼎
石
書

心萬境に隨いて轉する(禅語)



心 愛満ちる時



兵形象水

協贊出品 方上大驚

天地玄黃宇宙洪荒日月盈昃星辰宿列張寒未暑注秋收冬藏閏餘成歲律呂調陽雲騰致雨露結為霜金生麗水玉出崑岡劔豸巨閏珠稱夜光果珍李茶葉重芥蓋海鹹河淡
鱗潛羽翔龍師火帝鳥官人皇始制文字乃服衣裳推位讓國有虞陶唐弔民伐罪周發殷湯坐朝問道垂拱平章愛育黎首臣伏戎先遐迹壹體率賓歸王鳴鳳在樹白駒食場
化被草木賴及萬方蓋此身髮四大五常恭惟鞠養豈敢毀傷女慕貞潔男效才良知過必改得能莫忘罔談彼短靡恃己長信使可覆器欲難量墨悲染詩讚羔羊景行維賢
剋念作聖德達名立示端表正空谷傳聲虛堂習聽絢回惡積福緣善慶尺璧非寶寸陰是競資父事君曰嚴與敬孝當竭力忠則盡命臨深履薄夙興溫清似蘭斯馨如松之盛
川派不息淵澄取映容心若思言辭安定篤初誠美慎終宜令榮業丕基藉甚無克崇優登仕攝職從政存以甘棠去而益旅樂殊貴賤禮別尊卑上和下睦夫唱婦隨外受傳訓
入奉母儀諸姑伯翁猶子比兒孔懷兄弟同氣連枝交友投分切磨箴規仁慈隱側違次弗離節蕙廉退顛沛匪對性靜情逸心動神疲守真志滿逐物意移堅持雅操好爵自廢
都邑華夏東西二京背邱面洛浮渭據涇宮殿盤鬱樓觀飛翬畫彩仙靈丙舍傍昏甲帳對楹肆疋設席鼓瑟吹笙升階納陛弁轉疑星右通廣內左達承明既集墳典
魚聚羣英杜鵑鍾繇漆書辟經府羅將相路侯槐柳戶封八縣家給千兵高冠陸輦驅駟振纓世祿侈富車駕肥輕策功茂實勳碑刻銘碣溪伊尹佐時阿衡奄宅曲阜既營
桓公匡合濟弱扶傾綺回漢惠說感武丁俊又密勿多士寔寧晉楚更霸趙魏困橫假途滅舜踐土會盟何遵約法韓弊煩刑起翦頗牧用軍象精宣威沙漠馳譽丹青九州禹蹟
百郡秦并岳恒宗岱禪主云亭厲門慕塞雞田赤城昆池碣石鉅野河庭曠達綿邈巖岫窅冥治本於農務茲稼穡附載南畝藝藝黍稷稅熟貢新勸賞黜陟孟軻啟素史魚秉直
庶幾中庸勞謙謹勅聆音察理鑑貌罪色貽厥嘉猷勉其祗植省躬謙誠寵增抗極辱近取林阜幸即兩跡見機解組誰逸索居閒處沈默寡察求古尋論散慮逍遙欣泰累遣
感謝歡招梁荷的應園莽抽條杜杞晚翠梧桐早凋陳根委翳落葉飄飄遊鷗獨運凌摩絳霄耽讀說市寓目囊箱易輻攸畏屬耳垣牆具膳餼飯適口充腸飽飯京宰飢厭糟糠
親戚故舊老少異糧妾御績紡侍中幃房紙扇圓絜銀燭煒煌晝眠夕寐藍荀象林蒹歌酒燕接枯舉觴鳩手損足悅豫且康媼後嗣續祭祀蒸嘗稽顙再拜悚懼恐惶慙慙蘭要
頤谷審詳徽垢想浴執熱願涼驢驘特駭躍起矚誅新賊盜捕獲叛亡布射遠丸嵇琴阮嘯恬筆倫帑鈞巧任釣釋紛利俗竝皆佳妙毛施游姿工壘妍咲年矢每催曩暉朗曜
璇璣懸斡晦魄環照拍薪備枯永綏吉劬矩步引領俯仰廊廟束帶矜莊徘徊瞻睨孤陋寡聞愚蒙等請謂語助者為我乎也

辛未大著大驚迂人書

千字文

協賛出品 方上大鷲

鴉 散 黒 雲 為 陳 勢 楓
飄 紅 雨 佐 秋 聲 耳

大鷲書

鴉は雲辺に散じて黒く陣の形を作り 楓は赤い葉を散じて秋の声を立てる

協賛出品 ウスルングイ（内モンゴル）

ウスルングイの秋の聲を記す

美意延年

美意延年の秋の聲を記す
方上大鷲の研習会にて書す
二〇一〇年十一月

美意延年

淺野爽月

日之草堂江上開竹間亦有小亭臺
孟欲棄那忍
素五子不來
注復本索上離騷
談初羅坡頭獨
踏放
仍回湖山每索
驚人句須得張
郎八斗才
爽月書

王良佐詩

淺野爽月

景明四年十月七日廣川王祖母太妃侯自以流磨
弥劫於法喻遠囑遇像教身乘達士雖奉聯
紫暉早頃斤體孤育幼孫以紹蕃國

龍門二十箇廣川太妃侯
造像記二節 爽月書

龍門臨書

遊びをせん

とや生れけ

ん戯れせん

とや生まれ

けむ遊ぶ

子どもの声

聞けば我

身こそえこそ

動がるれ

爽月かく

梁塵秘抄

浅野爽月

浅野爽月

あの子は何処へ

行ったのかしら

お腹が空けば

帰ってきます

調和体 1

浅野爽月

救は愛は

調和体 2



浅野嘉子

則



浅野万希

動



浅野実季

洗心



浅野冬月

日々是好日

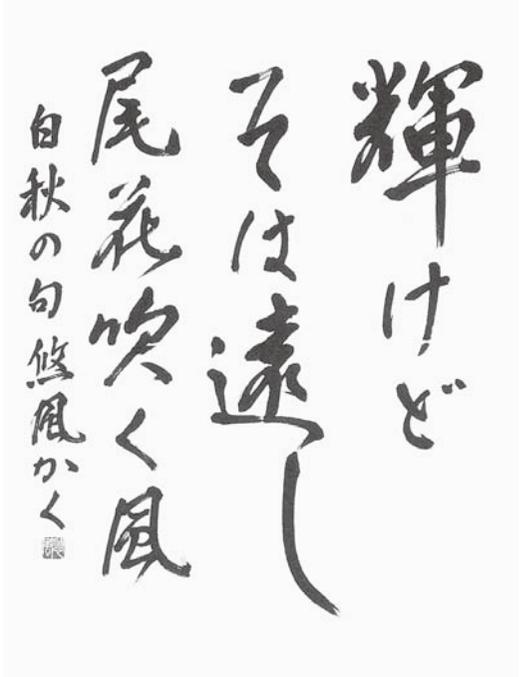


一期一会



龍天門に向い紫微に入る

石廣悠風



調和体

石廣悠風



月寒く江清く夜沈々 美人一笑千の黄金

伊藤可廉

漢語一書から千鳥の鳴き声
に似て心はあふれど静かなる守

源兼昌の歌

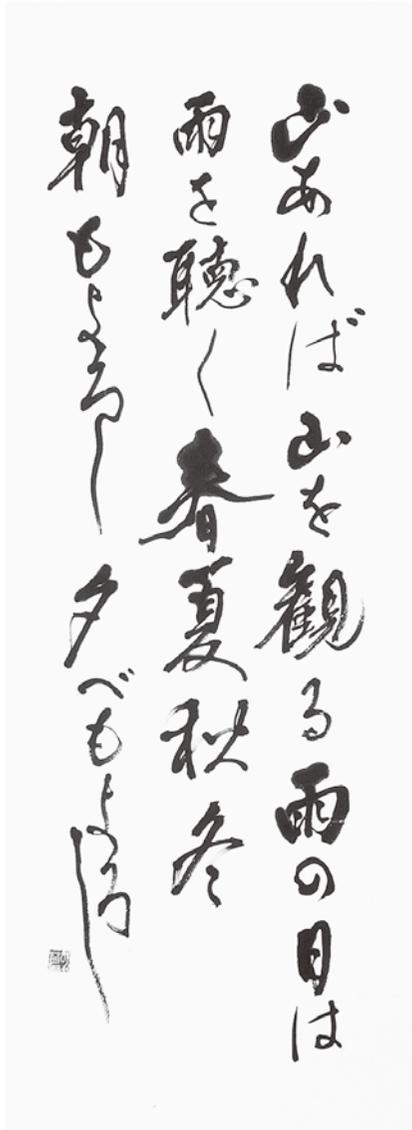
伊藤可廉

諱猛龍字神因南陽白
水人也其氏挨介興源

可廉 臨

張猛龍臨書

伊藤可廉



調和体



伊藤春華

疑事は功無し

月落烏啼霜滿天

春華書

月落ち烏啼いて霜天に満つ

道體安居深以為慰身

閑久棄塵滓与強勅回

春華

怡

印

王鐸褚遂良帖臨書

稻生翠扇

落日や白く光りて飛魚は征矢
降るごとし秋風の海

翠扇かく

調和体

稻生翠扇

壬午春暮書于澁州
暑月抱一張之祖招飲舟中

翠

扇

愔

王鐸

臨書

王鐸臨書

上田翠苑

五徳徹底す
泉の底に
清き水に
魚の行くこと遅々
空闊く涯莫く鳥の飛ぶこと杳々

水清みて底に徹り魚の行くこと遅々 空闊く涯莫く鳥の飛ぶこと杳々

大久保清風

禮を以て心を存す
清風かく

調和体

大久保清風

還山陰与子嚴
使告肉頗多
歲月今属天
寒擬遠為

清風臨

王鐸臨書

岡 惠風

在山常有清静日學
道方為仁聖人

惠風書

山に在りて常に清静の日有り
道を学ぶ方に仁聖の人と為る

邱

園

淡

心

迹

翠香書

邱園心迹淡なり

奥田翠香

泰

泰

楠本恭子

喜怒
哀樂

喜怒哀樂

花朝月夕隨時樂

妃風書

花朝月夕時に随いて楽しむ

詩五言与道俗人出菜
城東南九里登雲峯山

秋香臨

鄭道昭論經書臨書

柿木秋香

厚徳を載す

徳を厚くし物を載す

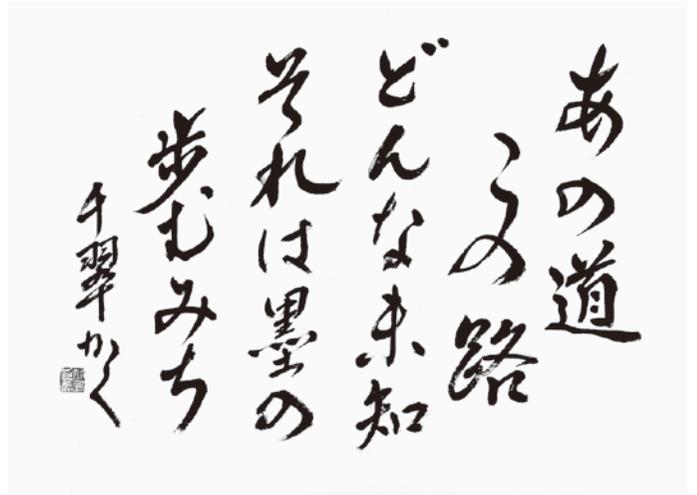
柿木秋香

兔追いかの山
鮎釣りか
の川夢
は今もめぐりて
忘れがたき
故郷

秋香かく

調和体

北野千翠



調和体

北野千翠



露下り天高くして秋水清し

久保田遊月



龍門臨書

久保田遊月



野は寂漠として其れ人無し

来間梓風

君不聞胡笳聲
最悲紫髯綠眼胡人吹

梓風
木

君聞かず胡笳の声 最も悲しきを紫髯綠眼の胡人吹く

佐々木華泉

道體安
居深以為慰
耳聞久棄塵滓
与強勒
回龜得

華泉
作

王鐸瓊蕊廬帖臨書

下出晴蘭

奉禁示承已上訖惟增慶
悦下情但多欣愜垂情

晴蘭作

王鐸瓊蕊廬帖臨書

杉本梅華

百年渾得醉

梅華書

百年渾として酔うを得る

高野艸苑

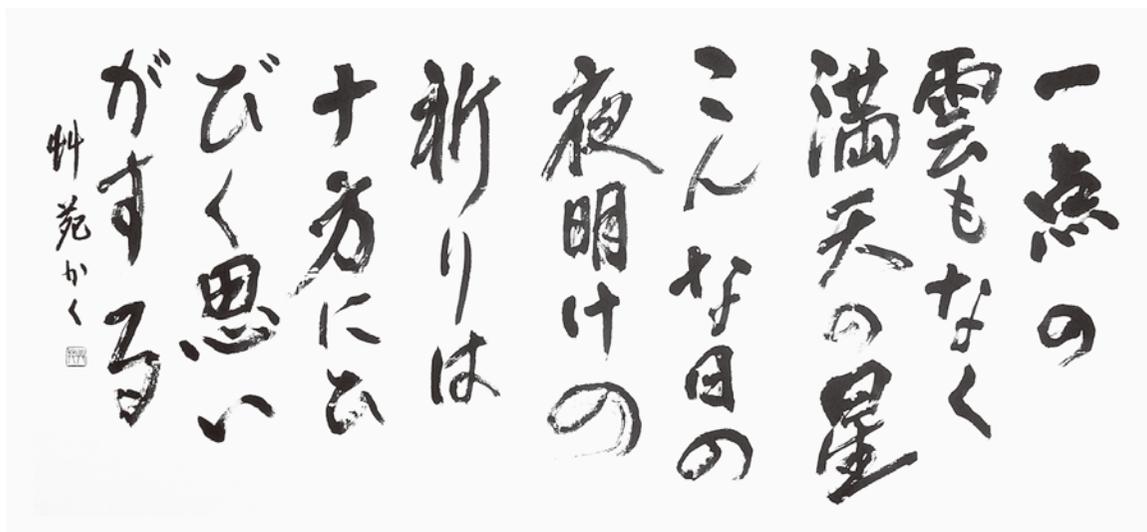
雁叫新霜九月时
客边节物信凄其
风吹败叶已绿
鏗屋角淫踈华
豆糜籼八跪蟹肥
村店酒一以沽
但野樵访待君
流水柴门共醉
残阳倒接羅
艸苑

吳廷圭に寄す

高野艸苑

閑心延鳴
畫角自海上
此登樓
茅
少
多
乙
無
名
旗
山
空
復
槐
艸苑
怡

王鐸臨書



調和体

竹尾綾香

白雲無盡時

綾香 書



白雲尽くる時無し

出水苔石

春城柳色幾家連
厨舍多時以禁煙
處綠蕪生夜雨
村白水落平田
花稀野圃东风
外人遠江天去
鴈邊盡日百花
沙上跡往來
惟有漢船
苔石書

韓奕詩

出水苔石

この道より我を生かす
道なしこの道を歩く

実篤の語
苔石かく

調和体

出水苔石

毎度逢時あるや深
病を遣ふも道也

苔石 帖
石 帖

王鐸瓊蕊廬帖臨書

土井恵泉

今咲いた一輪の花の喜びをわが
喜びと—して今日の日を送ってゆこう

坂村真民のことは 恵泉かく

調和体

土井恵泉

勿ら面山さみしくおくらぬ
常々遠路おちゆ中流つら牙

恵泉 信



王鐸瓊蕊廬帖臨書

土井 惠泉

温故知新

温故知新

中尾 亂翠

草下... 与謝野晶子の歌

与謝野晶子の歌

長者の方灯より貧者の一灯

亂翠かく

調和体

七月一日母之白忽然秋月但王羲之
以反得七月七日書去之有為之曰
弱若遠涉危不可云也
力多し王羲之

王羲之秋月帖亂翠臨

王羲之秋月帖臨書

積雨柴門草色新
一經白首又青春
也知性癖難移
俗却喜身閒不屬人
冷食鄰家將禁火
軟泥門巷不生塵
高懷誰肯同蕭散
放櫂烟江采白蘋
爽風書

韓奕詩

鳳仙花照らす夕日におのづから
その実のわけて秋暮れむとす

金子董園のうた

爽風かく

調和体

夏夜

風吹枯木晴天雨月照平沙夏夜霜
風生竹簾窓夏月照松岫蒼苔
空林寒雨度深更杯白月明初
涼のよき妙やふあふねとひかよ志
いとほものよやねとはとまふも
わよよ戻たうやとらあみーよよ
もしとやー如作是あーかぬともん
難者乃と共者あゝ東便吾は本度
、そあぬあぬとほ急下ー河をる
志乃、免



古筆臨書

東野鶴庭日馬樓從日幼活
 空連海岱心平野入青梅宛晴
 爽風臨信

王鐸草書卷臨書

荒山秋日午
 松岳書

荒山秋日午

福井都扇

水仙や古鏡の如く花をかぐ

都扇かく

王鐸瓊蕊廬帖臨書

福井都扇

奉了榮示承止上託惟増應

悦下情但多欣慙垂情同

都扇愷

調和体

青山白水映紅楓

沙風書

青山白水紅楓に映す

生月紋其中殊領略莫咎也

音氣盪控一張老父祖教之

梨風書

王鐸瓊蕊廬帖臨書

般若解羅密多心經 觀自在菩薩於深般若解羅密多時始見五蘊皆空度一切苦厄
 舍利子色不異空不異色即是空即是色色不異想於識亦復如是舍利子是諸學空相不生
 不滅不垢不淨不增不減是故空中慧多慧亦盡了並慧者前亦慧者前盡慧者前滅道慧如來
 變慧眼見了並慧意識界慧明亦慧明盡了並慧者前亦慧者前盡慧者前滅道慧如來
 慧邊上慧所得故著慧薛坐正般若解羅密多故也慧結礙慧結礙故慧刃翫修遠難如來
 妙願想府竟惺樂三世諸佛正般若解羅密多故得阿耨多羅三藐三菩提故知般若解
 羅密多是火福祝是火即祝是慧上祝是慧等祝能除一切苦真實不虛故說般若解羅
 密多祝即說祝曰揭諦揭諦解羅揭諦解羅揭諦解羅揭諦解羅揭諦解羅揭諦解羅揭諦解羅

照月拜誌

般若心經

森崎良山

揮毫落紙如雲烟

良山書

毫を揮つて紙に落とせば雲烟の如し

山下翔雲

九天雲靜鶴飛高

翔雲書

九天雲靜かに鶴飛ぶこと高し

山下蘭風

山家富貴銀千樹
漁夫風流玉一簑

蘭風書

山家の富貴は銀千樹 漁夫の風流は玉一簑

村田翠風

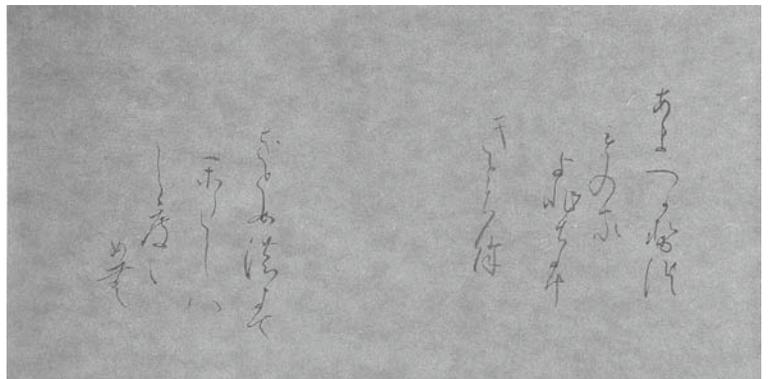
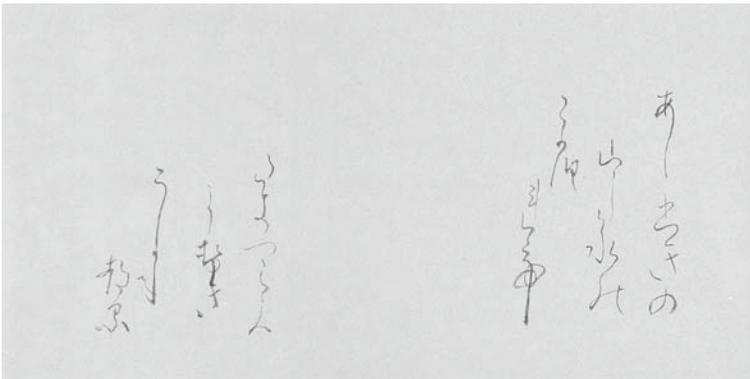
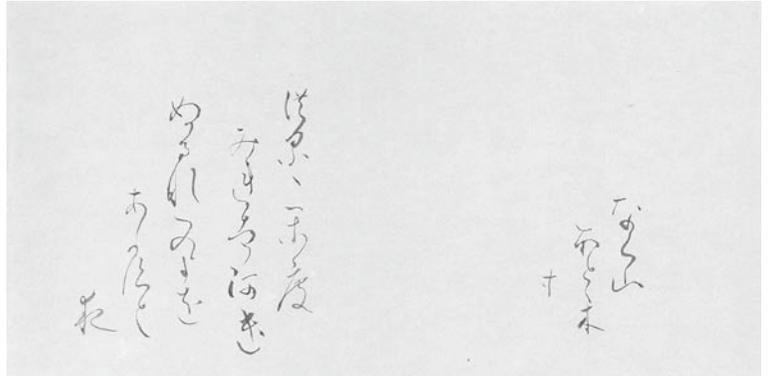
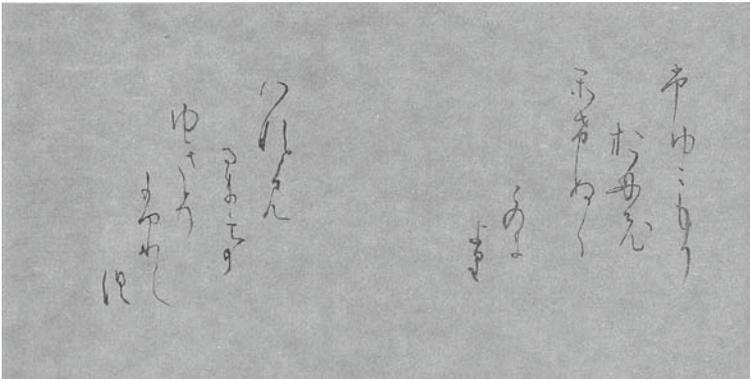
遠は隔片木始尋之佳
波板來は法名吾志建
権有之海三等

翠風臨書

王鐸瓊蕊廬帖臨書

村田翠風

継色紙 小野道風



Handwritten calligraphy on a light background. The text is arranged in two columns. The right column contains the characters 千代子 (Chiyoko) and 丁子 (Chōji). The left column contains 山崎 (Yamazaki) and 招山 (Shōsan).

Handwritten calligraphy on a light background. The text is arranged in two columns. The right column contains 三石 (Sanishi) and 石 (ishi). The left column contains 長子 (Chōji) and 長子 (Chōji).

Handwritten calligraphy on a light background. The text is arranged in two columns. The right column contains 山崎 (Yamazaki) and 招山 (Shōsan). A red seal is visible at the bottom left.

Handwritten calligraphy on a light background. The text is arranged in two columns. The right column contains 山崎 (Yamazaki) and 招山 (Shōsan). The left column contains 山崎 (Yamazaki) and 招山 (Shōsan).

Handwritten calligraphy on a light background. The text is arranged in two columns. The right column contains 山崎 (Yamazaki) and 招山 (Shōsan). The left column contains 山崎 (Yamazaki) and 招山 (Shōsan).

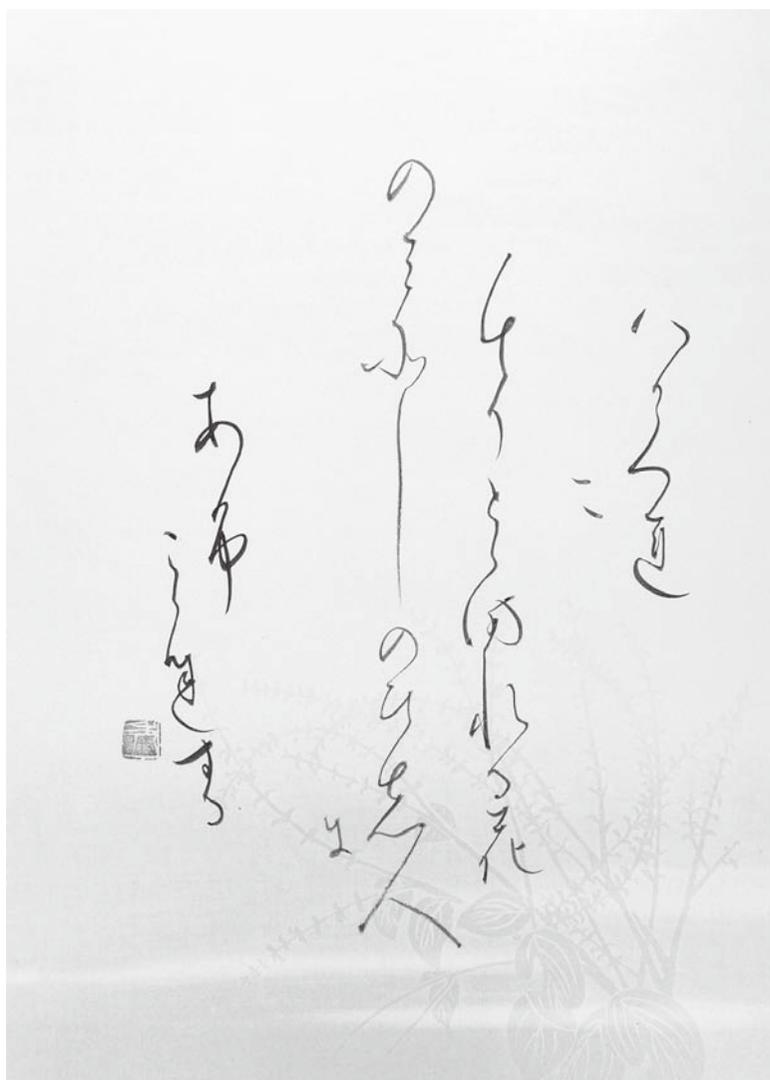
走馬西來欲到天

紅芭書

馬を走らせ西に來たり 天に到らんと欲す

時家短草枯 雜木春如雪
到諒見 羅鼎飛去 祝人多

秀苑 怡



西行の歌



ゆめ



寒月

辻中定



大

石橋采夏



喜

清水早智子



愛

ダルマシリ・シルワ (スリランカ)



すべて

青野瑞生

仲秋名月

青野瑞生

荒木駿佑

仲秋名月

荒木駿佑

井尻聖

仲秋名月

井尻聖

奥田奈桜

仲秋名月

奥田奈桜

奥田結芽

仲秋名月

奥田結芽

狩野優

仲秋名月

狩野優

坂野実咲

仲秋名月

坂野実咲

杉田千起

仲秋名月

杉田千起

高橋瑠花

仲秋名月

高橋瑠花

中島未侑

仲秋名月

中島未侑

原田大誠

仲秋名月

原田大誠

三好都暉

仲秋名月

三好都暉

村田美典

仲秋名月

村田美典

吉村有梨奈

仲秋名月

吉村有梨奈

井蓋彩花

秋空高し

井蓋彩花

上田 桜

秋空高し

上田 桜

櫻本 樹

秋空高し

櫻本 樹

川田翔大

秋空高し

川田 翔大

岸本七海

秋空高し

岸本 七海

高橋瑛莉

秋空高し

高橋 瑛莉

高橋大喜

秋空高し

高橋 大喜

松浦 風

秋空高し

松浦 風

三好美緒

秋空高し

三好 美緒

石野夏海

千草の花

石野 夏海

岩井佑宇

千草の花

岩井 佑宇

奥田紗也人

千草の花

奥田 紗也人

木村姫華

千草の花

木村 姫華

駄田井大伊志

千草の花

駄田井 大伊志

長瀬理恵子

千草の花

長瀬 理恵子

福井万結

千草の花

福井 万結

宮口大輝

千草の花
宮口大輝

森川主暉

千草の花
森川主暉

森川友梨子

千草の花
森川友梨子

井蓋拓斗

美しい月
井蓋拓斗

内田悠貴

美しい月
内田悠貴

木原明日香

美しい月
木原明日香

京田和馬

美しい月
京田和馬

武内梨里

美しい月
武内梨里

張亜美

美しい月
張亜美

塚本真奈加

美しい月
塚本真奈加

西川寧々

美しい月
西川寧々

樋口真未

美しい月
樋口真未

古川菜都子

美しい月
古川菜都子

古川由依

美しい月
古川由依

松田尚也

美しい月
松田尚也

南野百香

美しい月
南野百香

森川黎士

美しい月
森川黎士

山本一登

美しい月
山本一登

米澤凜太郎

美しい月
米澤凜太郎

榎本 彬

赤とんぼ
榎本 彬

片山和紀

赤とんぼ
片山和紀

岸本悠希

赤とんぼ
岸本悠希

下南春翔

赤とんぼ
下南春翔

高橋陽平

赤とんぼ
高橋陽平

高橋龍生

赤とんぼ
高橋龍生

中谷晃輔

赤とんぼ
中谷晃輔

中村美結

赤とんぼ
中村美結

中山瑚々奈

赤とんぼ
中山瑚々奈

橋本妃星

赤とんぼ
橋本妃星

菱田尚希

赤とんぼ
菱田尚希

福井杏佳

赤とんぼ
福井杏佳

道籐あすか

赤とんぼ
道籐あすか

宮口花月

赤とんぼ
宮口花月

吉本勇介

赤とんぼ
吉本勇介

荒木美乃里

白いくも
あくら 木みのり

植木姫夏

白いくも
うえきひめか

木原愛七美

白いくも
木原ま七み

木村美友季

白いくも
木村みゆき

田中みのり

白いくも
田中みのり

長瀬太志

白いくも
ながせ 太志

昼馬杏花

白いくも
ひるまきあな

古川恵莉子

白いくも
古川えりこ

古川蒼大

白いくも
古川そうた

松永和佳

白いくも
まつわかと

松原斗亜

白いくも
まつもとあ

山本彩加

白いくも
山本さやか

吉村羽瑠菜

白いくも
吉村はるな

米澤江桜

白いくも
米澤江桜

植木虎太郎

ながよし
うめこたろう

下南葵

ながよし
しもみなみあおい

駄田井啓伊佑

ながよし
だたいけいゆう

西川紗々

ながよし
にしかわささ

宮口美風

ながよし
みやぐちみかぜ

宮野海友夢

ながよし
みやのあゆむ

吉本さくら

ながよし
よしもとさくら

岸本大輝

はなび
きしもとだいき

木村知揮

はなび
きむらともき

田中あおい

はなび
たなかあおい

中谷祐貴

はなび
なかにゆうき

菱田朋希

はなび
ひしだともき

第20回 研墨会書道会記念展作品集

平成24年9月発行

発行 研墨書道会

〒584-0036 大阪府富田林市甲田6-9-33

TEL 090-8126-0136 FAX 0721-26-2662

代表 山添 鼎石

研墨書道会ホームページ

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~kenbokusyodo/>
